

2023年3月28日
株式会社日本政策金融公庫**国産飼料作物の利用に取り組む畜産経営体は半数超**

～ 飼料作物の生産拡大の課題 多岐にわたることが明らかに ～

＜農業景況調査（令和5年1月調査）特別調査＞

日本政策金融公庫（略称：日本公庫）農林水産事業は、融資先の担い手農業者を対象に「農業景況調査（令和5年1月調査）」を実施し、特別調査として、その中で国産飼料に関わる取り組みについて調査しました。調査結果のポイントは以下のとおりです。

＜国産飼料に関わる取り組み＞

- 稲作では「飼料用米の生産」に「取り組んでいる」とする割合は51.0%と半数超になりました。また「取り組んでいないが、今後取り組みたい」の割合は16.1%となりました。【P3】
- 稲作・畑作では「飼料作物（WCS、子実とうもろこし、牧草など）の生産」に「取り組んでいる」とする割合は15.4%となりました。また「取り組んでいないが、今後取り組みたい」の割合は24.4%となりました。【P3】
- 畜産では、「国産飼料作物（飼料米、WCS、子実とうもろこし、牧草など）の利用」に「取り組んでいる」とする割合は65.4%と半数超となりました。また「自家・自社での生産・調製」に「取り組んでいる」とする割合は45.8%となりました。【P3】
- 業種別では「国産飼料作物（飼料米、WCS、子実とうもろこし、牧草など）の利用」に「取り組んでおり、今後拡大したい」とする割合は酪農（都府県、60.9%）、肉用牛（52.9%）で、「自家・自社での生産・調製」に「取り組んでおり、今後拡大したい」とする割合は酪農（北海道：50.6%、都府県：55.0%）で半数超となりました。【P7、11】

※WCS（ホルクロップサイレージ）：稲、トウモロコシなどの実と茎葉を一体的に収穫し、発酵させた飼料。

＜国産飼料の生産拡大・利用拡大の課題＞

- 国産飼料の生産拡大・利用拡大の課題は、耕種では「収支（補助金含む）が合わない」（56.2%）の割合が最も高く、次いで「作業機械や調製設備等の不足」（41.1%）、「各種作業を行う労力が不足」（22.4%）となりました。【P12】
- 畜産では「各種作業を行う労力が不足」（43.3%）の割合が最も高く、次いで「収支（補助金含む）が合わない」（40.6%）、「作業機械や調製設備等の不足」（38.9%）となりました。また「生産用地の確保・整備が難しい」（38.6%）、「飼料の品質安定化が難しい」（36.4%）の割合も高く、課題が多岐にわたることがうかがえます。【P12】

■詳細は、添付のレポートをご参照ください。

農業景況調査（令和5年1月）

～特別調査：国産飼料に関わる取り組みについて～

～目次～

I .国産飼料に関わる取り組み	P3 ～ 11
II .国産飼料の生産拡大・利用拡大の課題	P12～13

○調査概要

- 調査時期: 令和5年1月
- 調査方法: 往復はがきによる郵送アンケート及びインターネット併用調査
- 調査対象: スーパーL資金又は農業改良資金のご融資先のうち23,305先
- 有効回答数: 7,424先(回収率31.9%)

(内訳)

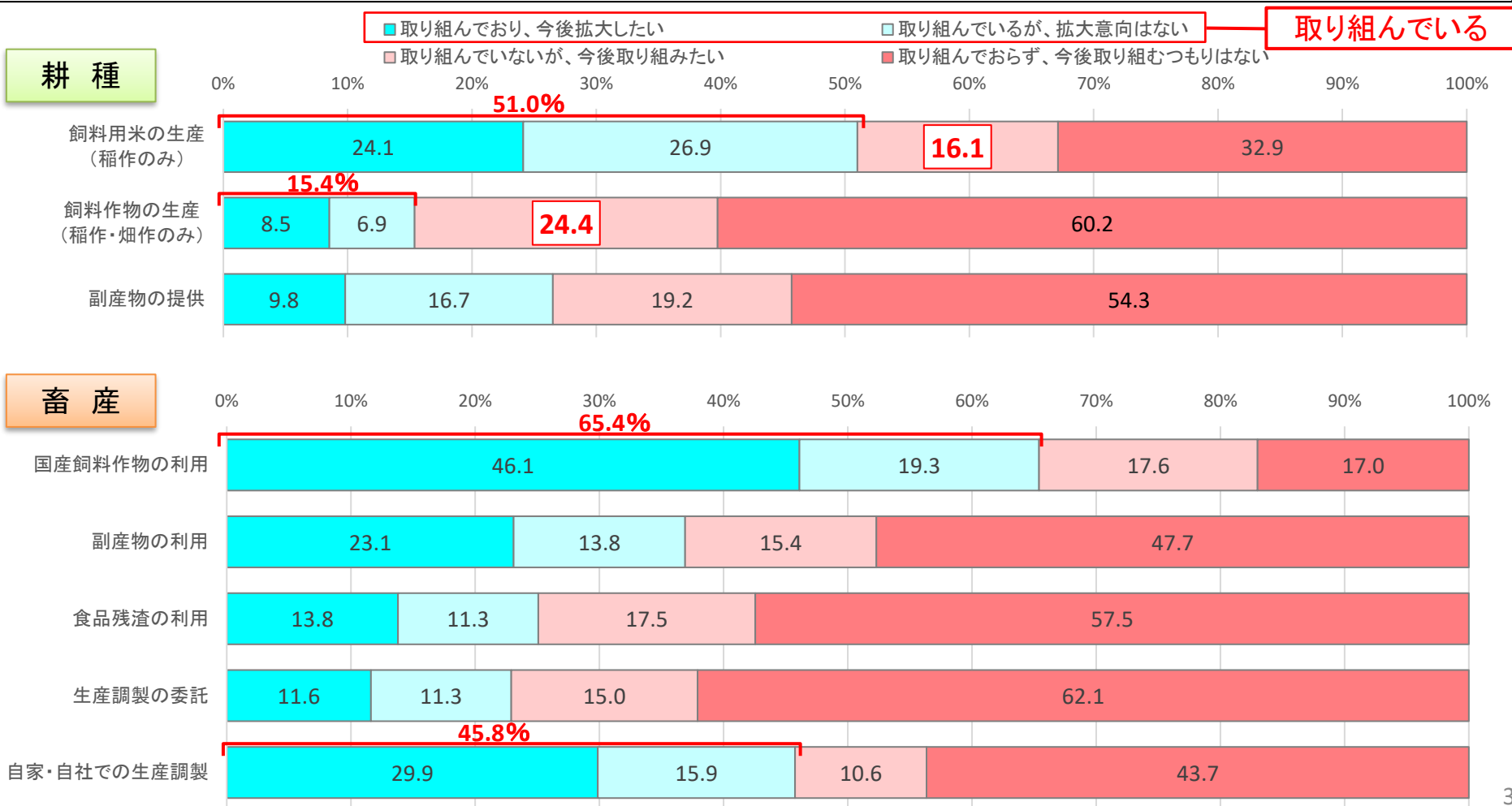
稲作(北海道): 677、稲作(都府県): 1,859、畑作: 627、露地野菜: 771
施設野菜: 675、茶: 122、果樹: 395、施設花き: 188、きのこ: 82、
酪農(北海道): 307、酪農(都府県): 316、肉用牛: 546、養豚: 241、
採卵鶏: 124、ブロイラー: 95、その他: 399

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 農林水産事業本部 情報企画部(担当: 高田、米山) TEL: 03-3270-5585
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

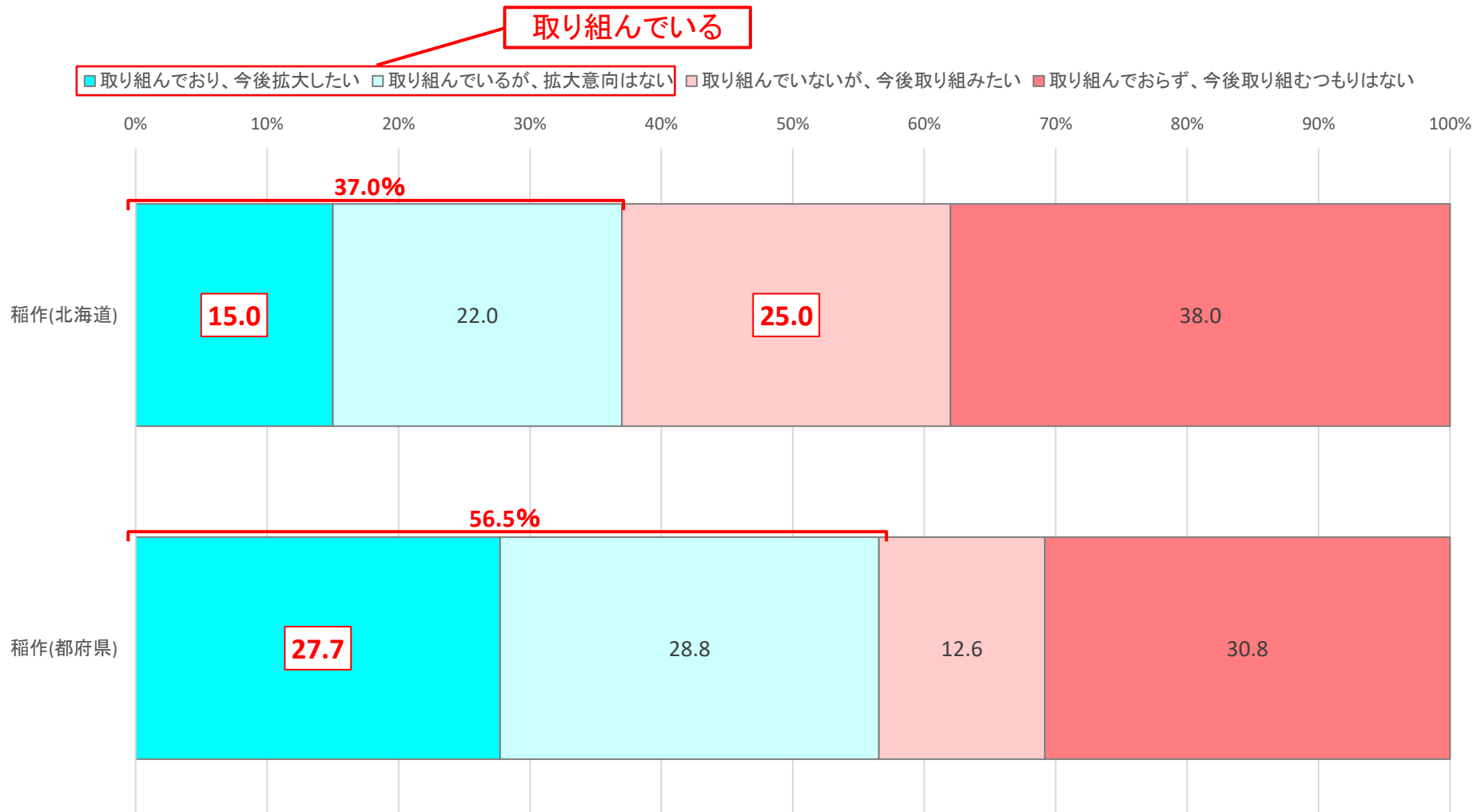
I. 国産飼料に関わる取り組み

- ・耕種における「飼料用米の生産(稲作のみ)」では「取り組んでいる」(51.0%)とする割合が半数超。また、「取り組んでいないが、今後取り組みたい」の割合は16.1%となった。
- ・耕種における「飼料作物の生産(稲作・畑作のみ)」では「取り組んでいる」とする割合は15.4%となった一方で、「取り組んでいないが、今後取り組みたい」は24.4%となった。
- ・畜産における「国産飼料作物の利用」では「取り組んでいる」(65.4%)とする割合が半数超。また「自家・自社での生産・調製」では「取り組んでいる」とする割合は45.8%となった。



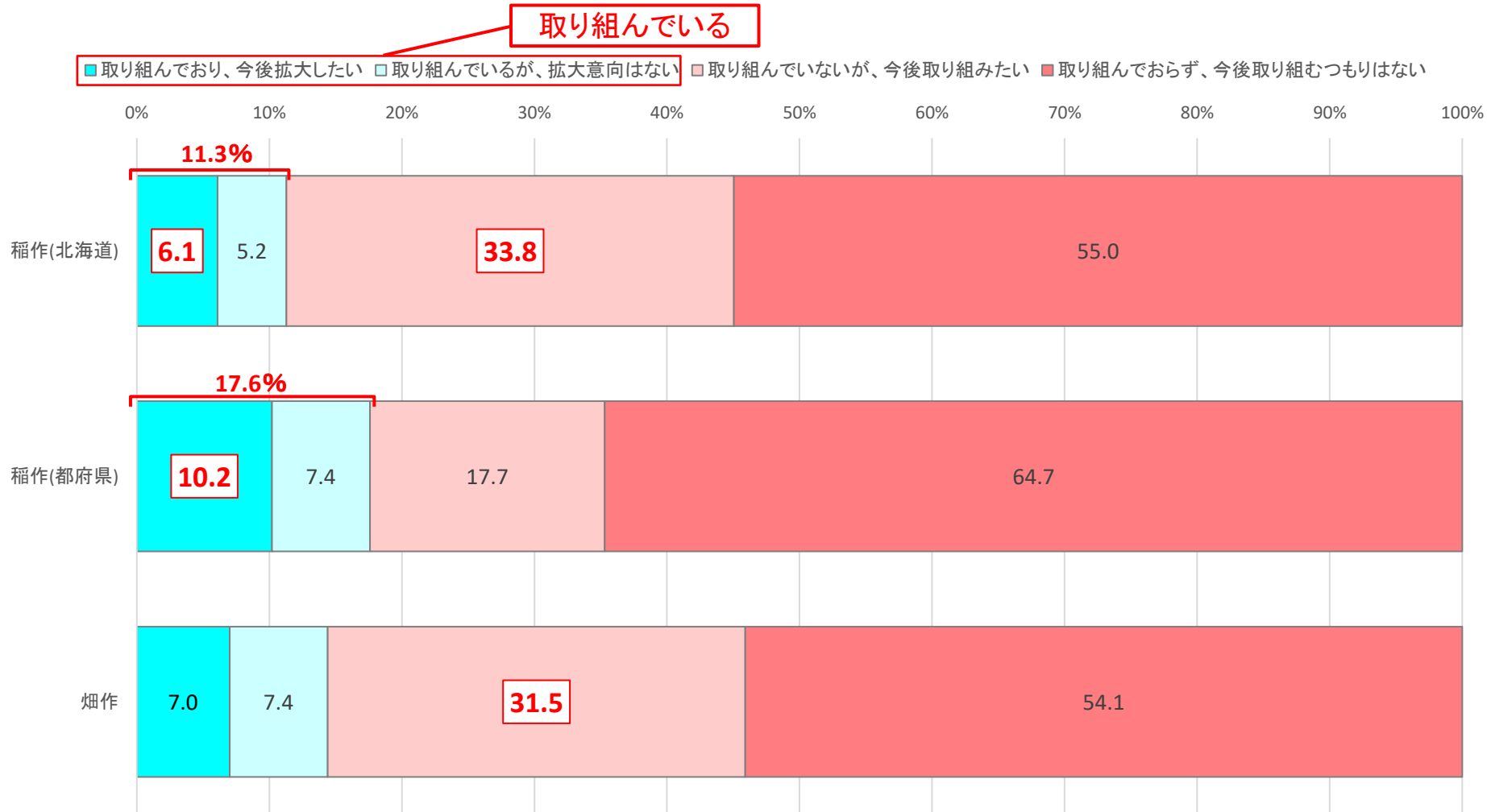
I. 国産飼料に関わる取り組み【稲作、飼料用米の生産】

- ・「取り組んでいる」とする割合は稲作(北海道、37.0%)より稲作(都府県、56.5%)の方が高く、半数超となった。
- ・「取り組んでおり、今後拡大したい」の割合は稲作(北海道)が15.0%、稲作(都府県)が27.7%となった。
- ・「取り組んでいないが、今後取り組みたい」の割合は稲作(北海道、25.0%)が高くなった。



I. 国産飼料に関わる取り組み【稲作・畑作、飼料作物(WCS※)、子実とうもろこし、牧草など】生産】

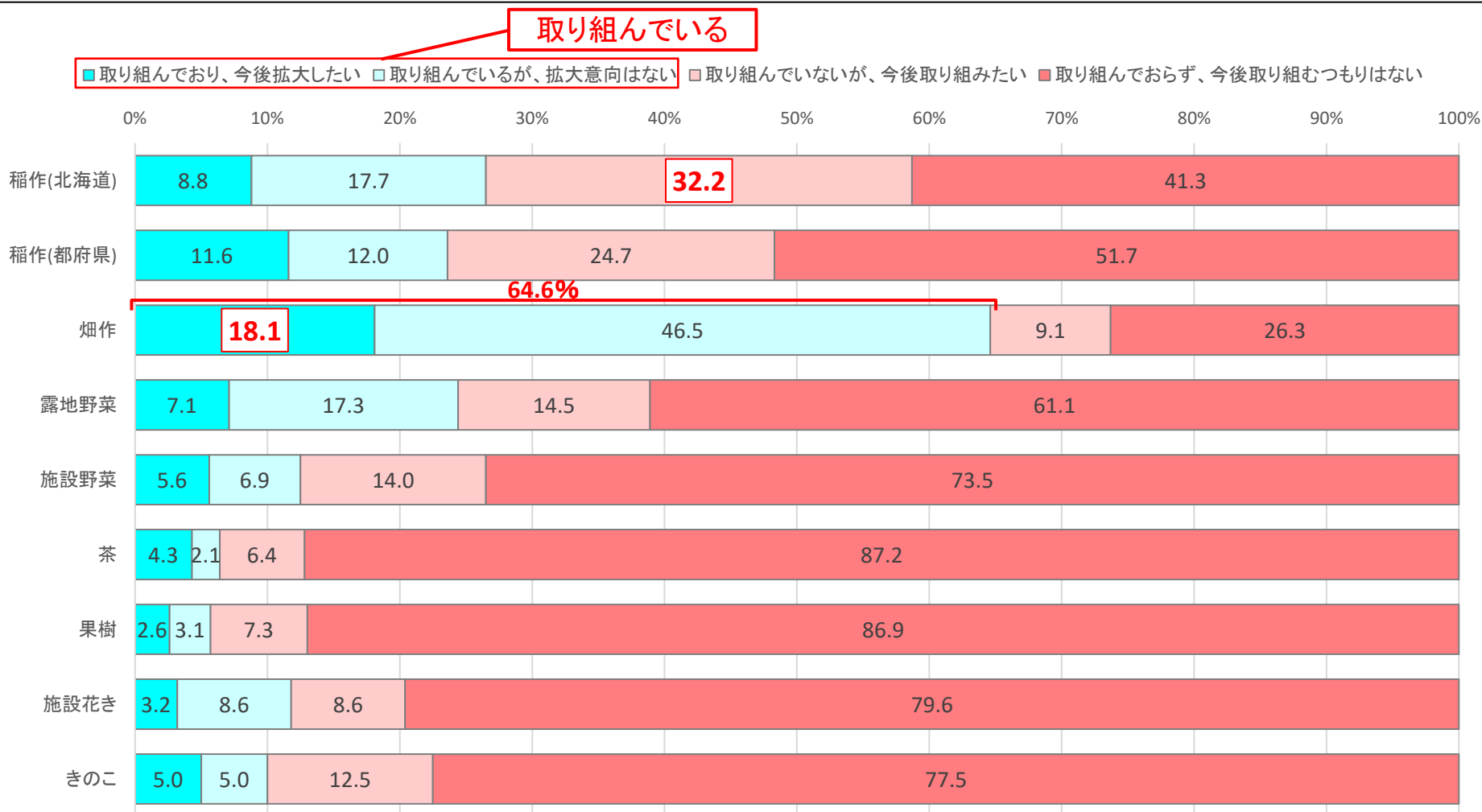
- ・「取り組んでいる」とする割合は稲作(北海道、11.3%)より稲作(都府県、17.6%)の方が高くなった。
- ・「取り組んでおり、今後拡大したい」の割合は稲作(北海道)が6.1%、稲作(都府県)が10.2%となった。
- ・「取り組んでいないが、今後取り組みたい」の割合は稲作(北海道、33.8%)、畑作(31.5%)で高くなった。



※ WCS(ホールクopp サイレジ): 稲、トウモロコシなどの実と茎葉を一体的に収穫し、発酵させた飼料。

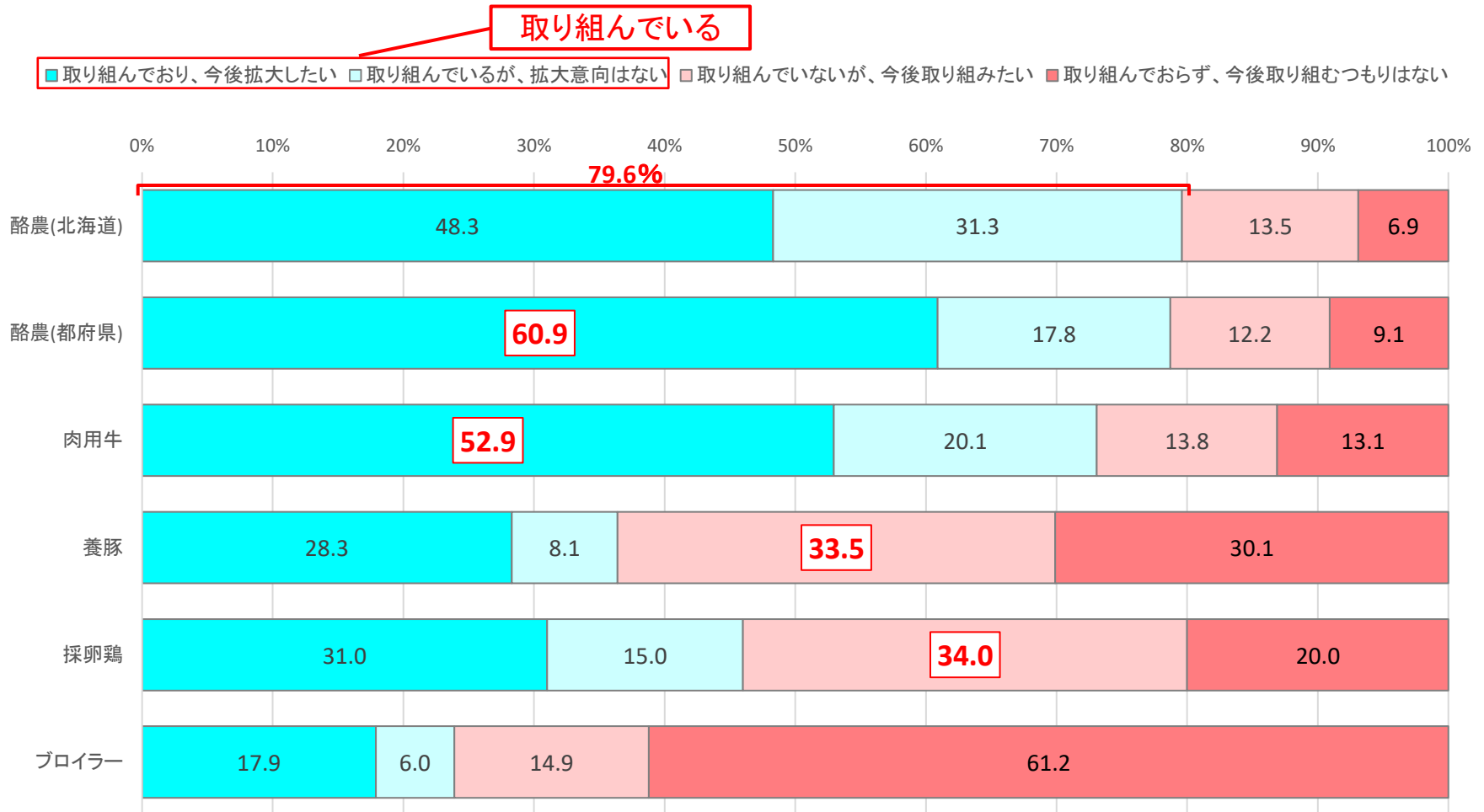
I. 国産飼料に関わる取り組み【業種別、副産物(稲麦わら、作物残渣など)の畜産への提供】

- ・「取り組んでいる」とする割合は畑作(64.6%)が最も高く、半数超となった。
- ・「取り組んでおり、今後拡大したい」の割合は畑作(18.1%)が最も高くなった。
- ・「取り組んでいないが、今後取り組みたい」の割合は稲作(北海道、32.2%)が最も高くなった。



I. 国産飼料に関わる取り組み【業種別、国産飼料作物(飼料米、WCS(※)、子実とうもろこし、牧草など)利用】

- ・「取り組んでいる」とする割合は酪農(北海道、79.6%)で最も高く、7割以上となった。
- ・「取り組んでおり、今後拡大したい」の割合は酪農(都府県、60.9%)、肉用牛(52.9%)で高く、半数超となった。
- ・「取り組んでいないが、今後取り組みたい」の割合は養豚(33.5%)、採卵鶏(34.0%)で高くなった。



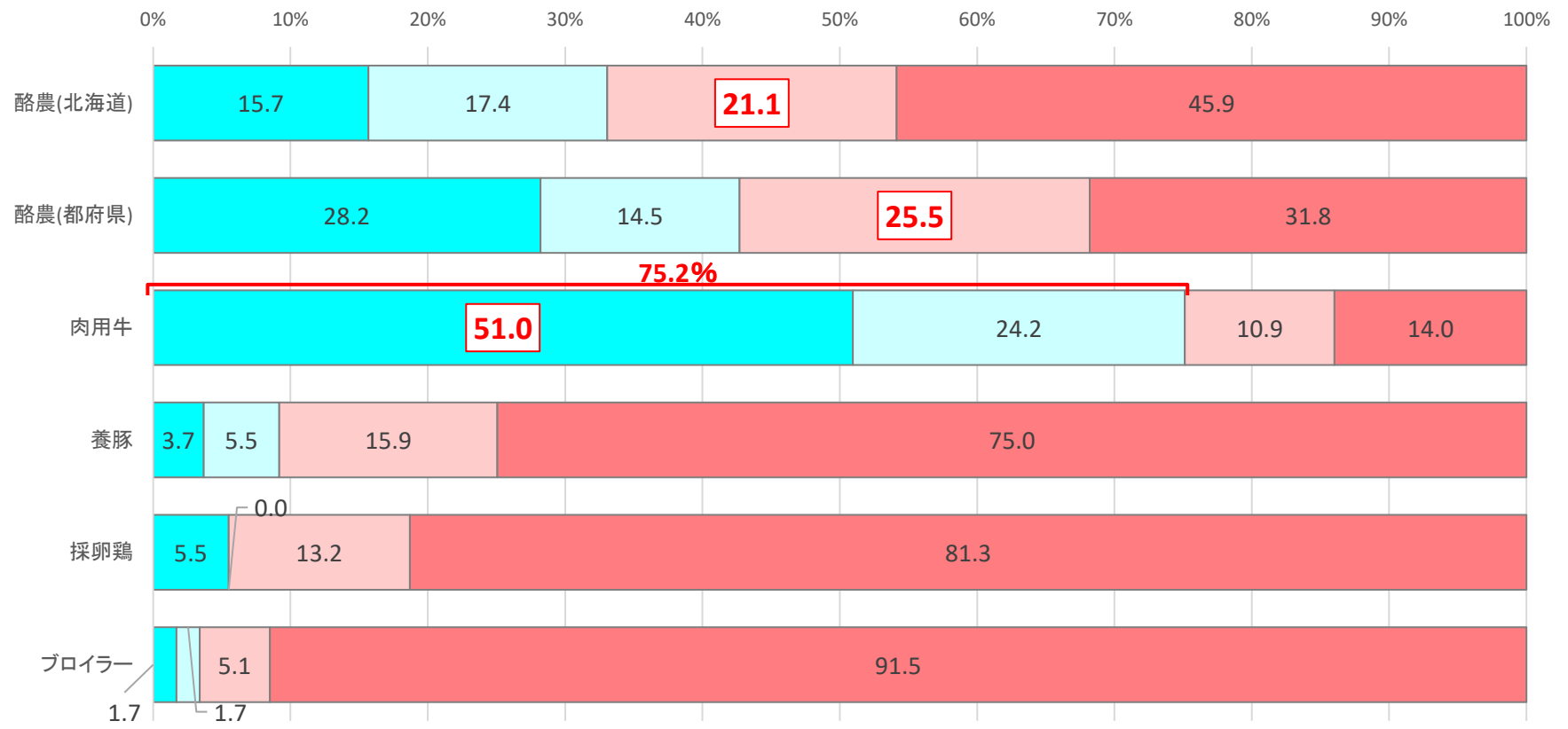
※ WCS(ホールクopp サイレージ): 稲、トウモロコシなどの実と茎葉を一体的に収穫し、発酵させた飼料。

I. 国産飼料に関わる取り組み【業種別、耕種農業者の副産物(稲わら、麦わら、作物残渣など)の利用】

- ・「取り組んでいる」とする割合は肉用牛(75.2%)で最も高く、7割以上となった。
- ・「取り組んでおり、今後拡大したい」の割合は肉用牛(51.0%)で高く、半数超となった。
- ・「取り組んでいないが、今後取り組みたい」の割合は酪農(北海道:21.1%、都府県:25.5%)で高くなった。

取り組んでいる

■ 取り組んでおり、今後拡大したい □ 取り組んでいるが、拡大意向はない □ 取り組んでいないが、今後取り組みたい ■ 取り組んでおらず、今後取り組むつもりはない

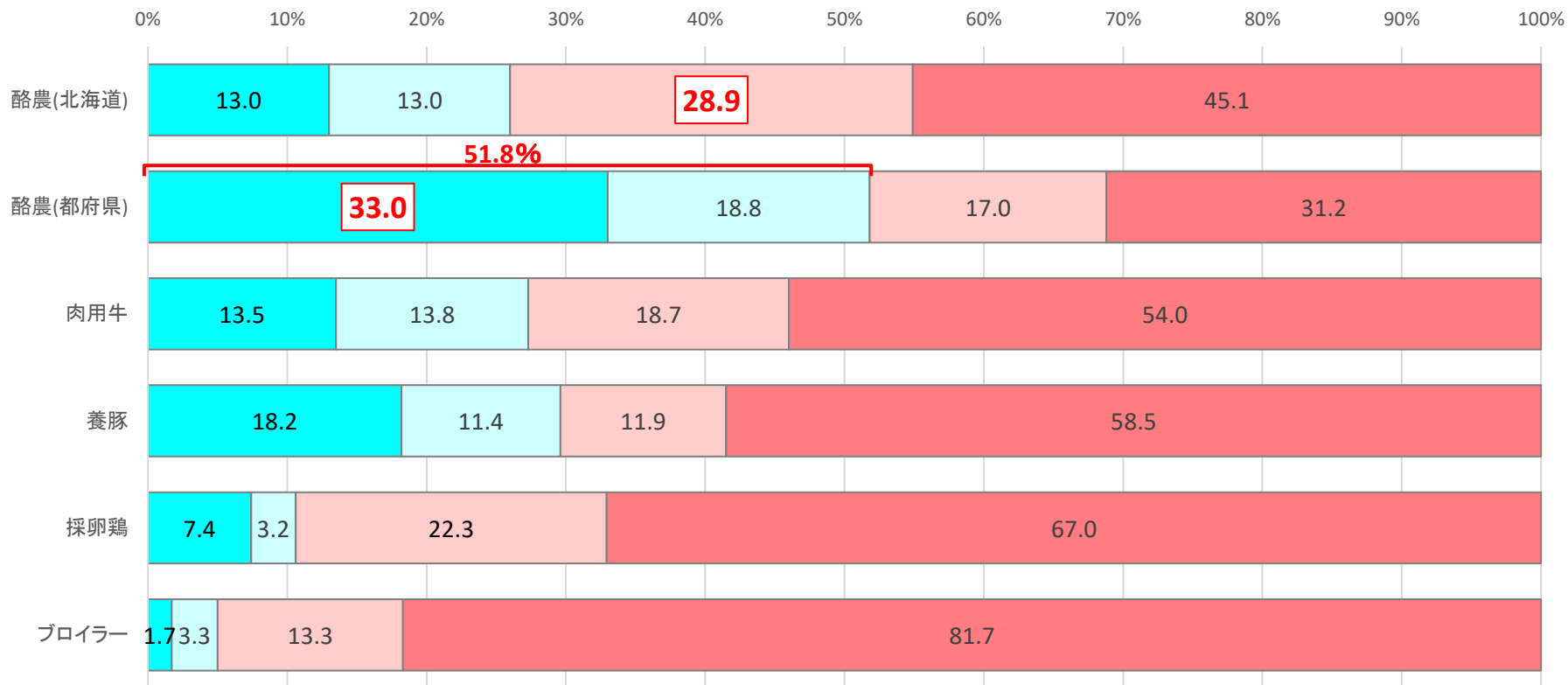


I. 国産飼料に関わる取り組み【業種別、食品残渣(絞りかす、食品廃棄物など)の利用】

- ・「取り組んでいる」とする割合は酪農(都府県、51.8%)で最も高く、半数超となった。
- ・「取り組んでおり、今後拡大したい」の割合は酪農(都府県、33.0%)で高くなった。
- ・「取り組んでいないが、今後取り組みたい」の割合は酪農(北海道、28.9%)で高くなった。

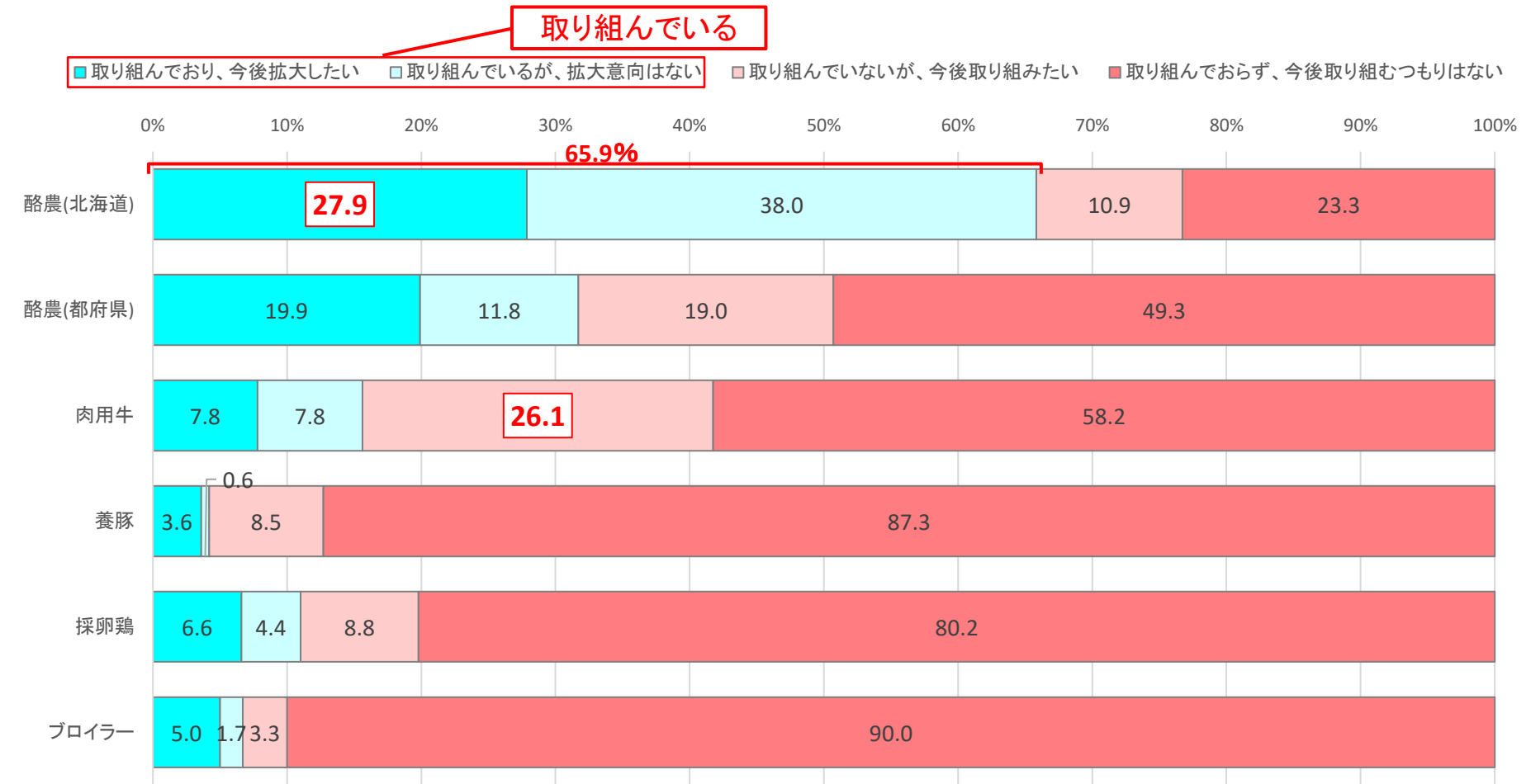
取り組んでいる

■ 取り組んでおり、今後拡大したい □ 取り組んでいるが、拡大意向はない ▨ 取り組んでいないが、今後取り組みたい ■ 取り組んでおらず、今後取り組むつもりはない



I. 国産飼料に関わる取り組み【業種別、飼料作物生産・調製を委託(コントラクター、TMR利用等含む)】

- ・「取り組んでいる」とする割合は酪農(北海道、65.9%)で最も高く、半数超となった。
- ・「取り組んでおり、今後拡大したい」の割合は酪農(北海道、27.9%)で高くなった。
- ・「取り組んでいないが、今後取り組みたい」の割合は肉用牛(26.1%)で高くなった。

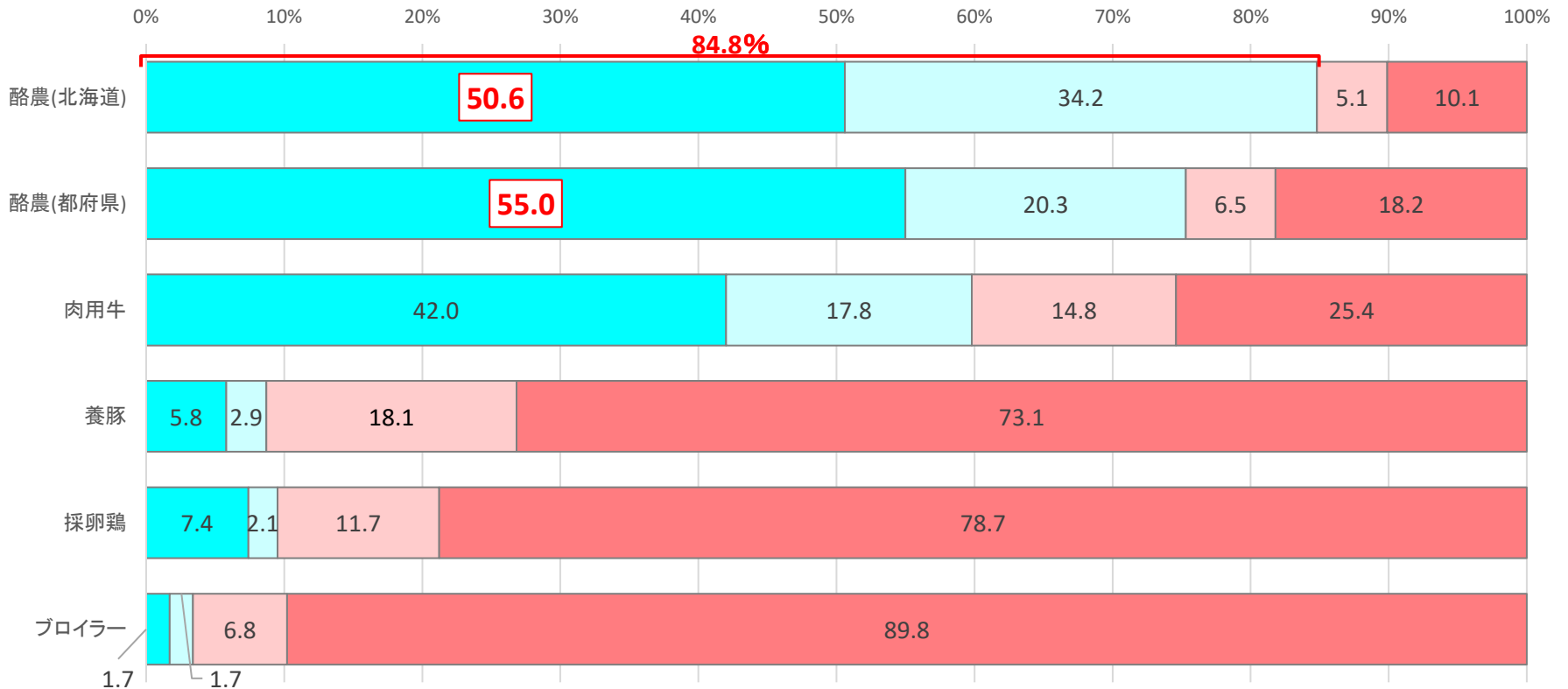


I. 国産飼料に関わる取り組み【業種別、自家・自社での飼料作物の生産・調製】

- ・「取り組んでいる」とする割合は酪農（都府県、84.8%）で最も高く、8割以上となった。
- ・「取り組んでおり、今後拡大したい」の割合は酪農（北海道：50.6%、都府県：55.0%）で高く、半数超となった。

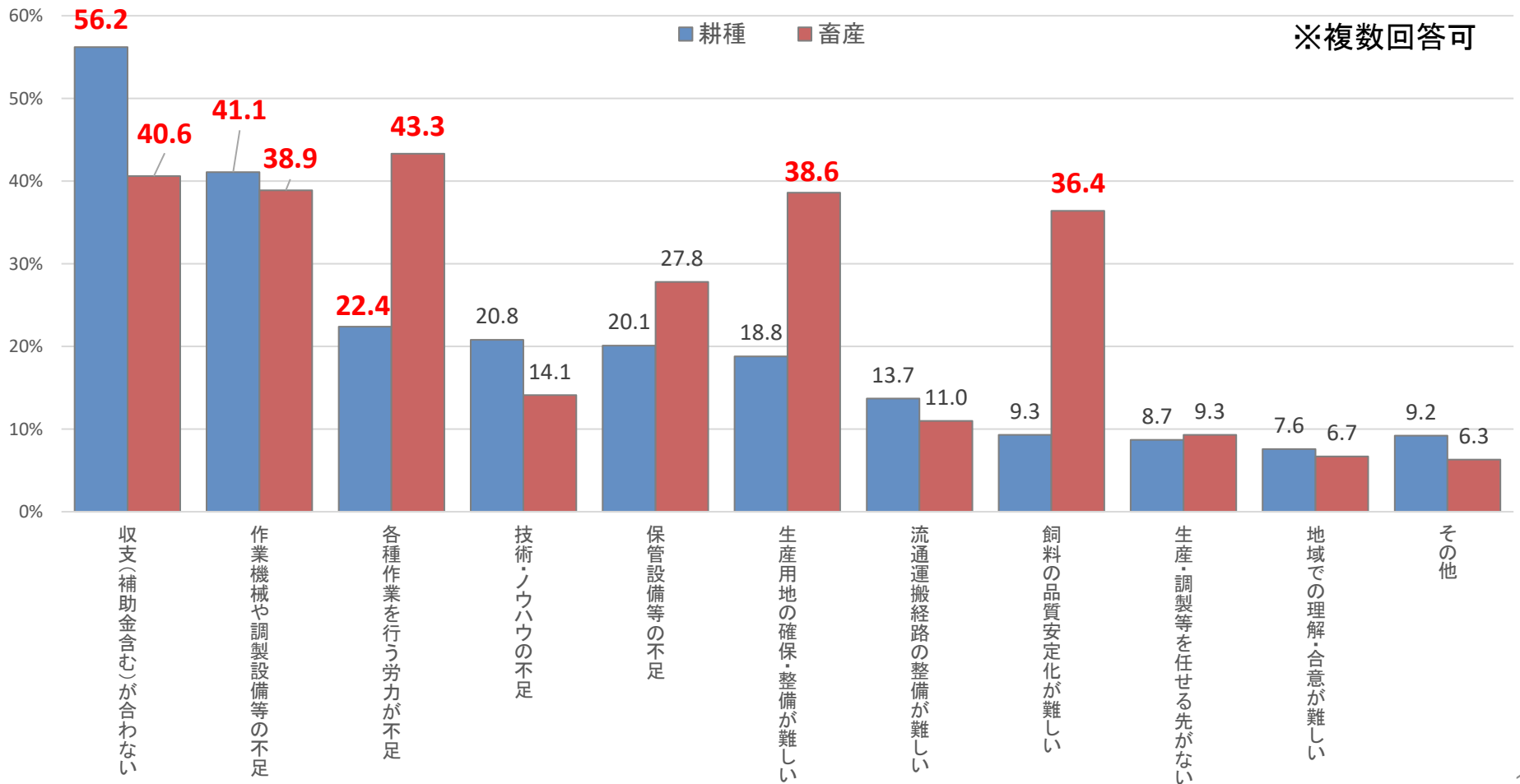
取り組んでいる

■ 取り組んでおり、今後拡大したい □ 取り組んでいるが、拡大意向はない □ 取り組んでいないが、今後取り組みたい ■ 取り組んでおらず、今後取り組むつもりはない



Ⅱ. 国産飼料の生産拡大・利用拡大の課題【耕種・畜産別】

- ・耕種では「収支(補助金含む)が合わない」(56.2%)とする割合が最も高く、次いで「作業機械や調製設備等の不足」(41.1%)、「各種作業を行う労力が不足」(22.4%)となった。
- ・畜産では「各種作業を行う労力が不足」(43.3%)とする割合が最も高く、次いで「収支(補助金含む)が合わない」(40.6%)、「作業機械や調製設備等の不足」(38.9%)となった。また「生産用地の確保・整備が難しい」(38.6%)、「飼料の品質安定化が難しい」(36.4%)の割合も高く、課題が多岐にわたることがうかがえる。



Ⅱ. 国産飼料の生産拡大・利用拡大の課題【業種別】

- ・耕種では「収支(補助金含む)が合わない」とする割合は畑作が71.7%と最も高くなった。
- ・茶では「各種作業を行う労力が不足」(36.4%)とする割合が最も高くなった。
- ・畜産では「各種作業を行う労力が不足」とする割合は酪農(北海道)が50.3%と最も高くなった。
- ・酪農(都府県)では「生産用地の確保・整備が難しい」(51.2%)とする割合が最も高くなった。

※複数回答可(各業種、上位2位までを赤字表記)

	収支(補助金含む)が合わない	作業機械や調製設備等の不足	各種作業を行う労力が不足	生産用地の確保・整備が難しい	保管設備等の不足	技術・ノウハウの不足	飼料の品質安定化が難しい	流通運搬経路の整備が難しい	生産・調製等を任せる先がない	地域での理解・合意が難しい	その他
耕種全体	56.2	41.1	22.4	18.8	20.1	20.8	9.3	13.7	8.7	7.6	9.2
稲作(北海道)	60.7	53.3	19.1	14.0	24.4	24.4	12.5	19.2	13.0	7.7	5.7
稲作(都府県)	58.6	38.9	23.8	16.9	20.7	17.5	10.2	14.1	7.2	7.3	8.7
畑作	71.7	46.2	15.1	19.0	24.9	20.0	10.7	13.0	10.7	8.2	5.8
露地野菜	56.9	45.3	24.8	26.5	19.7	24.0	6.0	12.2	10.4	7.7	5.8
施設野菜	41.9	33.8	25.4	21.1	12.4	23.9	5.8	11.9	6.3	8.9	11.9
茶	13.6	27.3	36.4	20.5	13.6	29.5	4.5	2.3	11.4	13.6	27.3
果樹	30.2	24.2	28.0	19.2	12.6	20.9	6.0	8.8	4.4	5.5	25.3
施設花き	41.6	27.0	15.7	18.0	11.2	21.3	4.5	10.1	7.9	6.7	22.5
きのこ	50.0	15.0	25.0	17.5	7.5	27.5	7.5	17.5	2.5	5.0	12.5

	収支(補助金含む)が合わない	作業機械や調製設備等の不足	各種作業を行う労力が不足	生産用地の確保・整備が難しい	保管設備等の不足	技術・ノウハウの不足	飼料の品質安定化が難しい	流通運搬経路の整備が難しい	生産・調製等を任せる先がない	地域での理解・合意が難しい	その他
畜産全体	40.6	38.9	43.3	38.6	27.8	14.1	36.4	11.0	9.3	6.7	6.3
酪農(北海道)	46.0	45.3	50.3	37.9	29.9	9.7	31.2	11.1	10.4	8.1	5.7
酪農(都府県)	35.9	45.8	48.2	51.2	19.9	7.0	38.9	8.3	7.3	6.3	7.3
肉用牛	36.5	44.2	46.4	38.5	29.3	13.8	38.3	8.1	7.3	7.1	4.3
養豚	46.8	32.5	39.9	37.4	32.5	28.6	41.9	24.6	12.8	8.9	6.4
採卵鶏	49.1	17.6	25.0	25.0	39.8	21.3	34.3	11.1	14.8	2.8	3.7
ブロイラー	37.0	6.8	16.4	16.4	13.7	12.3	31.5	11.0	9.6	2.7	20.5